

英語科の実践

教科担当者 三浦 美和子
米原 方子
桑田 直子

1 めざす生徒像

- (1) 互いの意見や考えを認め合い、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒

2 研究内容と実践例

(1) 研究内容 より

ペア・グループ学習活動の効果的な取入れ

言語の使用場面を意識したコミュニケーション活動を年間指導計画に位置付け、ペアまたは、グループで楽しみながら英語で表現できる場を積極的に設定した。特に「電話」「道案内」「買い物」等、Speaking Plus で繰り返し扱われている題材では、基本表現をペア・グループで応用し、独自のスキットづくりをするなど、発展的な学習を取り入れるよう努めた。また、スキットの発表時には、他のグループの発表を集中して聞くことができるよう、生徒同士の相互評価を取り入れた。

「A Mother's Lullaby」「The Fall of Freddie the Leaf」等、長文を扱う単元、各 Unit の Reading for Communication のパートでは、グループ（男女混成 4 人 1 組）で長文を訳していく時間を設定し、互いに協力しながら読み進めていけるよう工夫をした。また、英文を楽しみ概要を把握することを第一とし、わからない箇所があってもグループ内でどんどん読み進めていくよう指導した。

(2) 研究内容 より

個に応じたきめ細かな支援・指導の推進

一人一人の生徒によりきめ細かな指導ができるよう、各学年の実態に応じて TT もしくは小人数体制での授業を実施した。（以下参照）

学年	今年度指導体制
1 年 2 クラス	1 学期前半までは TT で授業実施、後半より等質集団による少人数授業実施
2 年 3 クラス	1 クラスの人数が他学年より少ないため、2 年 1 学期まで TT で授業を実施してきたが、理解力に差が出てきたこともあり、2 学期より自己表現コース、コミュニケーションコースの 2 つに分けて少人数授業を実施
3 年 2 クラス	通年で自己表現コース、コミュニケーションコースの 2 つに分けて少人数授業を実施

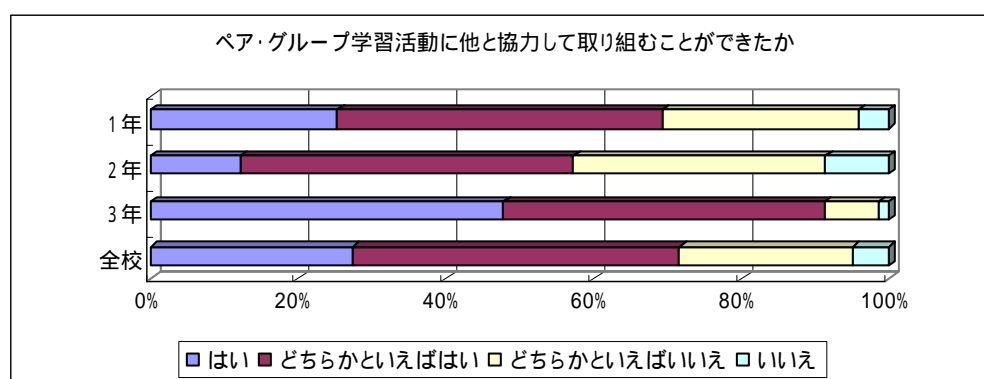
2, 3 年では、「自己表現コース」～基本文型を用いて、自分の気持ちや考えを正確に表現する活動を中心としたコース、「コミュニケーションコース」～既習事項を応用し、他者と積極的にコミュニケーションを図る活動を中心としたコースに分けて授業を実施している。（コースの選択は生徒の希望による）なお、このコースは絶対的なものではなく、生徒は学期途中でも能力・関心に応じ、担当教員の面談を経て変更することを可能とした。

長期休業時を利用し、2, 3 年希望者を対象に補足的な学習を実施した。（計 10 回）内容は基礎的、基本的なものに絞り、1, 2 年で扱われている be

動詞、一般動詞、助動詞の運用方法や基本的な会話表現等を中心に指導した。希望者のみの学習であったためか、「動詞にSがつくのはどのようなときか」、「be 動詞の使い分け方は」等、初歩的な質問も積極的に出された。また、課題が早く解けた生徒は、周りの友達にヒントを与えるなどして、協力して学ぼうとする姿も見られた。

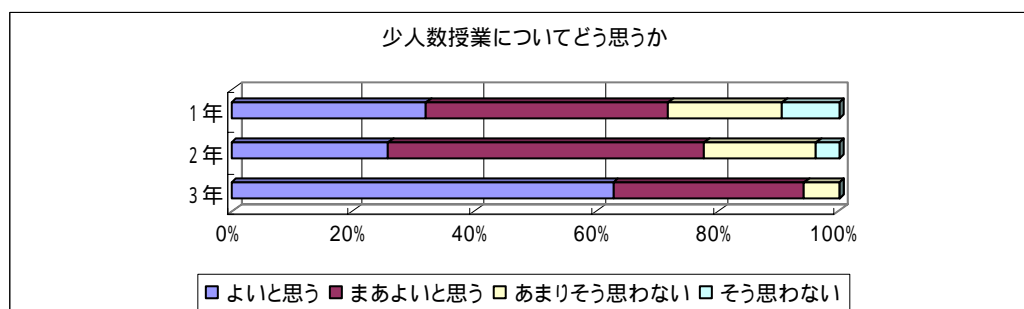
3 成果と課題

- (1) 場面に応じた表現活動をペア・グループで実施し相互に評価し合うことは、自らの気持ちや考えを英語で伝えると同時に、他の生徒の英語表現を聞く活動にもつながっていった。そのため、生徒の表現の幅が広がり英語運用能力が高まるなどの成果が上がってきている。(教師の観察、ALTによる英会話テストより)また、長文読解では、互いに単語の意味を確認し合ったり、文の解釈の仕方を論議してみたり等、声を出し合いながらグループで協力して訳を進めることができるようになった。「ペア・グループ学習活動に他と協力して取り組むことができましたか」というアンケートの質問に対しても、全校で71%の生徒が「はい」もしくは「どちらかといえばはい」と答えている。(回答者数 228名 1月実施)

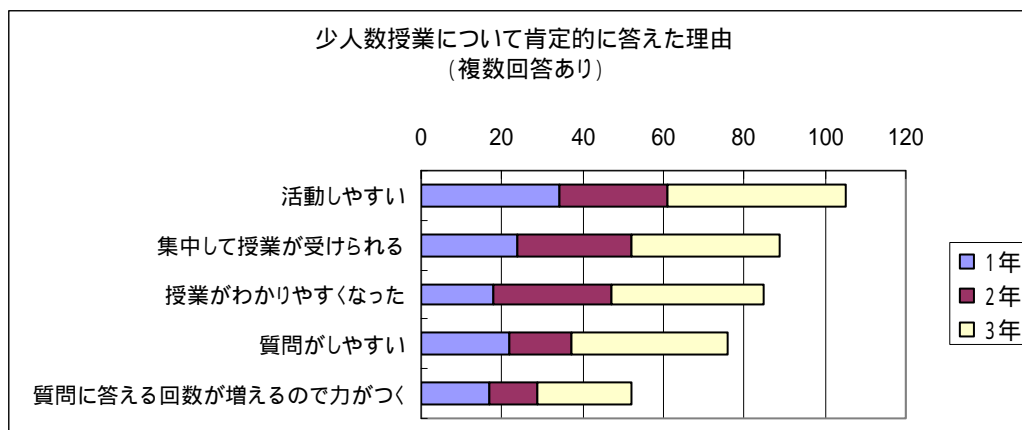


しかし、中には他とかかわることができず一人で課題に取り組んだり、他者まかせで、ほとんど活動に取り組もうとしない生徒もいる。そのような生徒が他とよりよい人間関係を築き、かわり合いの中で学びを深めていけるような支援方法を探っていくことが今後の課題である。

- (2) 1月に少人数授業についてのアンケートを全学年(回答者数 228人)で実施したところ1年72%、2年76%、3年94%の生徒が少人数での授業について「よい」もしくは「まあよい」と回答し、ほとんどの生徒がこの指導体制に満足しているという結果が得られた。



その理由としては、「人数が少ないので活動しやすい(105人)」「人数が少ないので集中して授業が受けられる(89人)」「授業がわかりやすくなった(85人)」が多かった。



また、少人数授業により、「英語に興味が出た」もしくは「力がついた」と感じている生徒は1年46%、2年40%、3年76%に上がった。特に、少人数授業について肯定的な回答が多い3年生では、昨年度末に実施した学力検査、1学期に実施した島根県学力調査でも英語得点率が受験者平均得点率より高い結果が出た。しかし、「生徒の人数が多くても少なくとも英語は理解できない」「質問に答える回数が多くなるので不安に思う」と答えている生徒がいることも事実である。そのような生徒に対しては、長期休業中や放課後等を利用した「補充的な学習」を継続していき、より個に応じたきめ細かな指導ができるよう配慮していくことが必要である。また、本校生徒は英作文を苦手とする傾向にあり、(アンケートおよび島根県の学力調査結果より)今後の少人数授業では「show and tell」等、話すことと結びついた書くことの活動を積極的に取り入れるなどして、writingの力が身に付くよう、指導方法を工夫していきたい。

